



出水高校だより

第三十号 令和四年三月三十日

卒業生からの プレゼゼント

今回は、国語科の本藏梨佳教諭のエッセイを紹介します。

この三月に卒業した、奥園ちほさんからもらった、素敵なおプレゼントのことを綴っています。

そのプレゼントとは、いったいどんなものだったのでしょうか。



奥園さん(左)と本藏教諭

瓢箪の向こう側に 見る未来

「先生、これ私が二年越しで準備したプレゼントです。受け取ってください。」

彼女が差し出したのは高さ十五cm・幅八cmほどの可愛らしい瓢箪だった。自然由来の素朴な質感。中も綺麗にくり抜かれ、乾燥させてあった。

明治から昭和にかけて活躍した志賀直哉の作品に『清兵衛と瓢箪』という小説がある。高校一年生の国語の教科書にしばしば収録される定番作品だ。

彼女は授業でその作品に出会い、強い感銘を受けたらしい。家族に頼み込んで自宅に植えていた朝顔を全て瓢箪に植え替え、授業や部活で忙しい高校生活の合間を縫って自らの手で育て、加工までしたそうだ。

彼女の行動力や主体的に学ぼうとする姿に私は感動した。教員として、こんなに嬉しいプレゼントは無い。これからの教員人生の中で『清兵衛と

瓢箪』を授業で取り上げるたびに、彼女が丹精込めて作ってくれた瓢箪のお世話になることだろう。

彼女は四月から福岡の大学に進学し、地域創生について学ぼうとしている。その行動力はいつか地元鹿児島を盛り上げる大きな力となるはずだ。

可愛らしい瓢箪の向こう側に、彼女と鹿児島の明るい未来を見る想いがした。

来年度もどっぴろどっぴろしく

校長 宮原義文

令和三年度が終わりに近づいています。保護者の皆様には、出水高校の教育活動にご協力いただき、本当にありがとうございます。

ございました。

来年度も、出水高校の魅力づくりに向けて努力してまいります。引き続き、温かいご支援を賜るようお願い申し上げます。